

おしだりあきこ
忍足亜希子さん
女優



2年前、映画「アイ・ラブ・ユー」で、日本で初めての、ろう者の主演女優として注目を浴び、まったくの新人ながら、その役を見事に演じきった忍足亜希子さん。彼女の活躍は、単に、一人のろう者が女優としてデビューしたというだけでなく、全国のろう者に共感を与えるとともに、将来への希望をもたらすスターとして、多くの期待を集めています。その忍足さんに、普段の生活の中で、コミュニケーションをとるときに感じたこと、また、女優としての思いについてお伺いしました。

私が女優をしているけど、
聞こえない子どもたちに
夢を与えられたら

耳が聞こえないのは個性 手話は世界各国の言葉と同じ言語のひとつ

ろう者は、本当は明るくて、みんなと一緒に楽しく話をする普通の人なんです。私が、映画「アイ・ラブ・ユー」のオーディションを受けようと思ったのは、自分自身、いろいろなことに挑戦してみたくて、単に経験してみようという気持ちだけでした。女優になろうという気持ちは、はじめはまったくありませんでした。ただ、この映画は、ろう者と聴者が一緒になって創るということに、興味がありました。それまでも、ろう者が登場する映画やテレビドラマはありましたが、役を演じているのは、すべて聴者でした。それを見ていて、私は、ろう者の実像とはズレていると、常々感じていました。いつも、暗いイメージで描かれていて。それを見ている方もきっと、ろう者はかわいそうと思込んでいるのではないのでしょうか。確かに、聞こえる人からすると、自分たちが聞こえるので耳が聞こえないことは不自由に思うのかもしれませんが。耳が聞こえないのは不自由だし、かわいそうだと思うかもしれませんが。しかし、私にとっては、ごく当たり前の生活なのです。

私にとって耳が聞こえないのは一つの個性。手話は、英語やフランス語、中国語などと同じ、言語の一つです。私が手話を身につけたのは、社会に出てからです。ろう学校では、一般社会で聴者と話をするときには口話が非常に大事だという考え方が強く、手話を使うことが禁止されていました。だから、当時は手話を知っている友達からこっそり教わり、見よう見まねで覚えました。ですから、成長するにしたがって、ろう学校で手話を言語として認めていないことを疑問に思うようになり、社会に出てからもずっと、それが心の奥にわだかまっていました。

それを解決してくれたのが、1994年。友達に誘われて、黒柳徹子さんが主宰し、米内山明弘氏が代表の「日本ろう者劇団」による演劇を見に行った直後でした。ろう者の文



化を大切にしている団体の存在を知り、その理念の中で、手話が立派な言語だということを確認しました。

手話には、便利などころもあります。たとえば、大きな騒音の中でも気にせずに話せるし、また、声のとどかない遠く離れたところにいる人とも、話すことができます。新幹線のように窓の開かないところでも、ガラス越しに会話ができます。さらに、スキューバダイビングのとき。海の中でも、きれいな魚と出会った感動を、すぐに伝えあうことができるのです。

コミュニケーションしようという 気持ちが大切

普段、私は、ろう者とは手話で会話をし、聴者とは筆談することが多いです。聴者でも、少し手話を知っている人とは、相手に分かるペースで、手話を使うこともあります。聴者は、いつも休みなく音声で話をしているので、筆談となると戸惑う方が多いようです。いつも会話しているような言葉で書いてもらえればいいのですが、難しく考え込んでしまうのでしょね。ですから、「あまり難しく考えなく



ていいですよ。普通に書いてください」と言うと、少しドキドキした様子で、ようやく書き始めます。

でも、街中で道を尋ねたりするときなど、私の耳が聞こえないと分かると、引いてしまう人もやはりいます。

以前、道を歩いていたら、多分、後ろから話し掛けてきたのだと思いますが、突然、わきから顔を出してきて、怒ったような仕草で、「何度も言っているのに」というようなことを言われたことがあります。そのとき、「私、耳が聞こえませんが、どうかしましたか」という素振りをしたら、「すみません」と言って、すぐに立ち去ってしまいました。そういうとき、寂しいというか、傷つきますね。私は、別に何とも思っていないのに。



Profile

忍足亜希子(おしだり・あきこ)

1970年6月10日、北海道千歳市に生まれる。銀行勤務の後、NHK「ノッポさんの手話入門」「ノッポさんの手話で歌おう」に出演。NHK「みんなの手話」レギュラー。1999年10月、映画「アイ・ラブ・ユー」で、日本初のろう者の主演女優としてデビュー。1999年(第16回)山路ふみ子映画賞福祉賞受賞。2000年(第54回)毎日映画コンクール・スポニチグランプリ新人賞受賞。1999年度「全国映連賞」女優賞受賞。主演第2作映画、京都シネマセナ第2回作品「アイ・ラブ・フレンズ」は、2001年秋に公開予定。著書に、「愛、聞こえますか?」フォトエッセイ「こころのこえ、かぜのうた」などがある。

多くの日本人の場合、面倒だとか、コミュニケーションの方法をどうしていいかわからないということで、避けてしまうことがよくあります。一方、外国の場合は、そういうことをあまり気にしないように思います。電車の中のことですが、外国の方に「この電車で成田空港まで行くことができますか」と聞かれて、「いいえ、乗り換えないと行けませんよ」と教えてあげたのですが、その後も筆談で「どこに行くの?」「私はアメリカに帰ります」というように、別れるまで楽しく会話を交わしました。ものすごく楽しかったです。私が外国へ旅行するときも、コミュニケーションには困りません。身振り手振りとか、筆談でという方法が多いですが、こちらから尋ねれば、相手も喜んで話をしてくれます。

あと、これも文化の違いだと思いますが、外国の方は、相手の目を見て話す人がほとんどなのですが、日本人は、そうではない人のほうが多いようです。じっと見られることが恥ずかしいという、昔からの生活習慣のためかもしれません。とはいえ、私の場合、見ないとわからないので、自然と相手を見ますし、逆に見られることが気になることもありません。

いずれにせよ、コミュニケーションしたいという気持ちさえあれば、いつでも、誰にでもできると思います。

コメディに挑戦し、ろう者は面白い人が多いことを知って欲しい

この秋、主演2本目となる映画「アイ・ラブ・フレンズ」が第2回京都映画祭(9月23日~30日)で初公開される予定です。この映画は、京都を舞台にして、亡き夫が残した写真館を守りながら、プロのカメラマンを目指すというストーリーで、ろう者、聴者という関係ではなく、困ったときにはお互いに助け合うという、人として自然な姿を描いています。そこを重要なポイントとして観ていただきたいですね。1本目の「アイ・ラブ・ユー」のときは、すべてが初めてのことで、最後まで緊張の連続でしたが、今回

は2本目ということで、気持ちに少し余裕が持てるようになりました。台本を読んで流れを把握し、集中力を高めて自分の役に入り込む。そして、役にふさわしい演技の仕方を考える。前回と比べたら大きく進歩したと思います。もちろん、まだ2作目なので、演技力はまだまだ。少しずつ勉強・経験を積み重ねながら、頑張っていきたいと思っています。

好きな女優はメグ・ライアン。どんな役でも楽しそうに演じていて、とにかく元気っぱいの女性なので、魅力的ですね。今後、私もいろいろな役に挑戦していきたいと思っています。中でも、コメディをやってみたいですね。ろう者は、暗い、寂しい、孤独というイメージが根強く、これまで、ろう者が演じるコメディはありませんでした。ろう者には、本当はとても面白い人がたくさんいます。それをぜひ見てもらいたいし、ろう者も一番望んでいるものだと思います。

また、私と同じ、ろうの子どもたちも、多くの夢を持っていると思います。以前は、女優になろうという夢は、持つことができませんでした。でも、実際に女優をやっている人がいるとしたら、私もできるかもしれないという気持ちになれるはずですよ。ですから、子どもたちに「私も大丈夫?



夫?」と聞かれたら、「一生懸命努力すれば大丈夫よ」と答えるようにしています。これからも、子どもたちに多くの夢を持たせてあげたい。そういう仕事をやっていきたいですね。

人権文化の息づくまちを目指して

京都市では日々の暮らしの中に人権を大切にし、尊重しあう習慣が根付いた人権文化が築かれることにより、人権問題の解決が図られるとの考えのもと、その取組を積極的に進めるため、平成11年3月に、平成16年を目標年次とする「人権教育のための国連10年京都市行動計画」を策定し、人権に関する学習機会の提供や、広報・宣伝活動、女性・高齢者・障害のある人などの社会参加の支援等「人権文化の息づくまち・京都」の実現に向けた取組を総合的・体系的に進めています。

平成12年度中に、各局区等が、行動計画に基づき主体的に取り組んだ事業実績がまとまりましたのでお知らせします。

行動計画に掲げた78項目の具体的取組のうち、平成12年度までに77項目に着手しています。また、平成12年度中には、新たにはじめた19事業を含む356事業に取り組みました。

行動計画に掲げた推進分野別取組事業数	
推進分野	事業数
学校等における人権教育の推進	25
人権尊重の考え方が日常生活に根付いていくための取組	147
社会参加と交流の推進	85
市民の自主的な取組の支援	50
人権尊重の社会風土づくり	64
人権尊重を基本とした市政の推進	86
合計	457

人権課題別取組事業数	
人権課題	事業数
女性の人権	51
子どもの人権	58
高齢者の人権	44
障害者の人権	106
同和問題	55
外国人の人権	52
HIV感染者の人権	15
その他の人権及び人権全般	227
合計	608

* 推進分野別及び課題別取組事業数については、重複して計上していますので、それぞれの事業数の合計と実際の事業数とは合致しません。

おもな新規取組事業

- ・ 高齢社会対策実態調査
- ・ 児童虐待防止法の手びきの発行
- ・ 保育所に関する外国語版パンフレットの作成
- ・ 地域子ども体験ランド事業
- ・ 学校を拠点とした生涯学習の推進
～ようこそ!まなびや事業

なお、具体的な取組実績については、「取組実績一覧表」としてまとめており、市情報公開コーナー、各区役所・支所の地域振興課、市立図書館、生涯学習プラザ等で平成13年8月6日(月)から9月7日(金)の間に閲覧できます。

問い合わせ

文化市民局人権文化推進部人権文化推進課
TEL 222-3381

人権ゆかりの地MAP II [洛北編]

京都人権啓発推進会議発行「人権ゆかりの地をたずねて」を参考に作成しました。

START 立命館大学国際平和ミュージアム 徒歩約15分 金閣寺 徒歩約10分 ツラッティ千本

京都ライトハウス 徒歩約5分 千本釈迦堂 徒歩約5分 上七軒バス停

加茂川中学前バス停 市バス約20分 高麗美術館 GOAL 徒歩約2分

見学時間・乗換時間は含みません

ツラッティ千本(京都市楽只隣保館資料室) / 千本北大路西側



明治初期、京都市北部の蓮台野村に住む益井元右衛門は、身分差別に苦しむ地域の人たちのため、明治政府に身分取立嘆願書を提出しました。ツラッティ千本には、部落解放に努力した人たちの業績を伝える数々の資料が展示されています。

ここがポイント 被差別部落の人たちに対する差別や偏見を撤廃するために、勇気をもって行動した先人たちの意気込みを肌と感じてください。

1200年の歴史と伝統を持つ文化都市、京都。古くは渡来人が大陸の文化を伝え、平安時代には紫式部や清少納言などの女性が活躍した人権先進都市でもあります。いまも京都のまちのあちこちで、先人たちが残した足跡をたどることができるはず。

8月は人権強調月間。さあ、地図を片手に、人権ゆかりの場所を訪ねてみましょう。ほんの少し、あたりを見渡すだけで、いつも見慣れている風景の中にも意外な発見があるはずですよ。

金閣寺(鹿苑寺) / 市バス「金閣寺前」からすぐ



足利義満が室町時代に建てた別荘を禅寺に改めたもの。正しくは鹿苑寺といいますが、金色に輝く舍利殿(金閣)があまりに美しいので、いつしか金閣寺と呼ばれるようになりました。いまでは世界文化遺産にも登録され、京都を代表する史跡として親しまれています。

ここがポイント 義満は、中国や朝鮮の国々と友好関係を結び、外国からの使者をたびたび金閣に招待しました。金閣寺は、優越感や偏見にとらわれない善隣外交のシンボリック存在だったのです。

立命館大学国際平和ミュージアム / 市バス「立命館大学前」から南へ約300メートル



20世紀は、第2次世界大戦をはじめ、数多くの戦争や紛争が繰り返された時代でした。立命館大学国際平和ミュージアムは、過去の歴史に学び、未来の平和を願って、1992年に開設された博物館。戦争と人権の関わりを実物展示などで分かりやすく説明しています。

ここがポイント 戦争に反対したために、逮捕されたり、民族差別によって生命をうばわれた人は数知れません。平和な時代に生きる私たちですが、過去の戦争が残した悲惨な教訓を心に留めておきたいものです。



高麗美術館 / 市バス「加茂川中学前」から西へ約200メートル



在日一世の鄭詔文(チョン・ジヨムン)氏は、韓国・朝鮮人に対する偏見と差別が根強く残る中で、朝鮮文化の理解と普及に努めた人物です。高麗美術館は1988年、鄭氏の自宅を開放して創設されました。植民地統治下に朝鮮から日本本土に持ち込まれた文化財が私財を投じて収集されています。

ここがポイント 高麗美術館では、優れた美術工芸品が展示されています。さまざまな所蔵品と出会うことによって、日本と韓国・朝鮮との友好の輝きを発見することができるでしょう。

京都ライトハウス / 千本北大路下の一筋目西入



盲学校の教員で、自身も目に障害をもつ鳥居篤治郎は、人生のすべてを障害者の教育と福祉にささげました。1961年、彼が中心となって創立された京都ライトハウスでは、視覚障害者のための老人ホームや点字出版などの事業が行われています。

ここがポイント ライトハウスは英語で「燈台」を意味します。目の不自由な人々をいつまでも照らし続けたい。創立に関わった先人たちのそんな切実な願いが込められている施設です。

千本釈迦堂 / 今出川上七軒から北へ約500メートル



大工の棟梁が誤って柱を短く切ってしまいましたが、妻のおかめの適切な助言によって工事は無事に完成。しかしその後、夫の失敗を人に知られてはと思い、彼女は自らの命を絶ってしまいます。千本釈迦堂には、おかめの供養塔があり、いまでも多くの人が花を手向けに訪れます。

ここがポイント かつてわが国には、女性の社会参加を積極的に認めない風潮がありました。おかめ伝説は遠い昔の物語ですが、男性中心の社会の中で、常に忍従を強いられてきた女性がいたことを忘れてはなりません。

人、輝いてます！

障害者のある人の自立生活を支援するために、
カウンセリングや障害者福祉に
取り組んでいるのが谷口明広さん。

自らも身体に障害をもち、
精力的に活動を続ける
谷口さんの姿を通して、
障害のある人たちがイキイキと
暮らせる社会とは何かを考えます。



笑顔がきらり。
障害のある人の自立支援を広げたい！

障害のある人が、地域社会の中で自分らしい豊かな生活を送ることができるようにと、自立支援や福祉活動に取り組んでいるのが谷口明広さん。ご自身も身体に障害があり、障害のある人たちに対するカウンセリングや生活技術に関する支援を行い、ときには大学の教壇に立って障害者福祉に関する講義も行っています。また、そのソフトな語り口調とさわやかな人柄から、全国各地の講演会に招かれることも多く、その数は年間300回以上に及ぶこともあるとか。自立した生活を実現した谷口さんのバイタリティーあふれる姿は、障害のある人の心強い励みになっています。

谷口さんが障害のある人の自立支援に取り組むようになったのは、いまから約20年前に経験したアメリカ留学がきっかけでした。「アメリカでは、地下鉄やバス、住宅さえもすべてバリアフリーが徹底されていて、車いすで会社に通勤している人もたくさんいました」と谷口さん。電車に乗るにも、誰かに頼らなければならない生活をしてきた谷口さんにとって、いち早くノーマライゼーション社会を実現したアメリカでの経験は何もかもが魅力的だったといいます。

「例えば、車いすで買い物に行くと、さりげなく店員さんが横についてくれて、こちらが何も言わなくても商品をバッグに入れてくれる。そうしたサービスがごく当たり前に行われているんです。障害のある人たちを社会の一員として受け入れる思いやりの意識が、市民の心の中に根づいているんでしょうね」。日本でも障害者がイキイキと生活できる社会を実現できないか——。谷口さんは帰国後、京都市下

京区に自立生活問題研究所を設立し、アメリカでの経験を踏まえながら、障害のある人たちが自立していくための支援活動を開始しました。「最近、日本でも低床バスやリフト付きタクシーなどを見かけるようになりました。20年の歳月はかかりましたが、障害のある人たちが暮らしやすい社会づくりに向けて、ようやく第一歩を踏み出したようですね」と谷口さんは目を細めます。

また谷口さんは、昨年10月、旧左京図書館の施設を利用し、京都市障害者生活支援事業としてオープンした自立生活支援センター「きらリンク」で事務局長をつとめ、カウンセリングも行っています。センターには、「車いすだからという理由で入居を断られた」「福祉サービスの利用方法が分からない」といった相談が、毎月300～400件寄せられるとか。障害のあるカウンセラーが相談者と同じ視線に立って行うカウンセリング（ピアカウンセリング）は、世界的な規模で関心を集めています。



自立生活相談に訪れた
養護学校高等部生

「同じ障害のある者ということで、心を開いて話してくれることも多い。身のまわりのことすべてを支援するのではなく、あくまでも自立したいという意欲（エンパワーメント）をバックアップするのです」。

こうした地道な活動が実を結び、センター開設後、これまでに2人の障害のある方が、親元や施設を離れて自立生活を実現することができたそうです。

「きらリンク」ではそのほか、障害のある人の自立支援事業の一環として、今年5月から京都府・京都市などの協力を得ながら、パソコンやインターネットの講習会を行っています。移動が困難な重度障害者には、自宅に出向いてパソコン操作を教えることもあります。谷口さん自身、パソコンやワープロが普及する前は、ボールペンを口にくわえて文字を書いていました。IT技術の発達で、障害のある人のコミュニケーションの可能性を広げると期待しています。

「まちで障害のある人が困っているのを見かけたら、ごく普通に声をかけてあげてください。そうすればその人が何を求めているか、おのずと分かってくると思いますよ」。障害者支援の輪を広げるために、今日も全国を忙しく飛び回る谷口さん。身体に不自由があっても、何にも縛られない自由なその心には一片のバリアも感じられませんでした。



佛敎大学での講義

お問合せ先
自立生活支援センター「きらリンク」
京都市左京区高野東開町1-2（旧左京図書館）
TEL/(075)707-8814 FAX/(075)703-0615

交通 バリアフリー法

バリアフリーとは、「バリア(障壁)になるものをなくす」という意味。建物や道路の段差をなくしたり、通路に視覚障害者誘導用ブロックを敷設するなど、最近ではさまざまな場所でバリアフリー化が進められています。障害のある人もそうでない人も、高齢者も若者も、ともに安心して暮らしていける社会的、精神的に豊かな環境をつくっていかうという考え方です。

こうしたことが普通である社会(ノーマライゼーション社会)を実現するための第一歩が、「交通バリアフリー法」(2000年11月施行)。障害のある人や高齢者の自立した社会参加に欠かせない旅客施設や、車両などのバリアフリー化を推進する法律として、期待が高まっています。

車両内車いすスペース



車いす用スロープ板を備えたノンステップバス

車いす対応トイレ



左右に手すりがついたスロープ

旅客施設や車両だけでなく、 周辺の道路などのバリアフリー化も 一体的に推進

障害のある人や高齢者にとっては、ちょっとした段差でも通行の妨げとなることがあります。交通バリアフリー法は、こうした人たちが安全・円滑に公共交通機関を利用できるようにするために、旅客施設や車両などのバリアフリー化を推進する法律です。駅やバスターミナル、空港などの旅客施設を新設する場合や、新しく車両を導入する場合には、エレベーターの設置や視覚障害者誘導用ブロックの敷設といったさまざまなバリアフリー化に関する基準(移動円滑化基準)への適合が義務づけられています。また、1日の利用者数が5000人以上の既設の旅客施設や車両についても、それぞれ国が定めた2010年までの目標に基づき、移動円滑化基準に適合したバリアフリー化に努めなければならないことになっています。さらに、各市町村が中心となって、旅客施設とその周辺の道路、公園や信号機などのバリアフリー化を重点的・一体的に推進することによって、障害のある人や高齢者が自立した日常生活を営むことができる社会の実現を目指しています。

心のバリアはありますか？

この交通バリアフリー法は、交通事業者や行政だけの問題なのでしょうか。いいえ、決してそうではありません。たとえば、みなさんがまちを歩



けば、駅前や歩道に放置された自転車に気づくことがあるでしょう。せっかく、段差のない広い歩道が整備

されても、これでは車いすが通行することはできません。駐輪や駐車をする前に、周囲の人たちのことを考えてみてください。まずは、私たち市民一人ひとりが「心のバリアフリー」を認識し、ノーマライゼーション社会の実現に向けて意識を高めていかなければなりません。

京都市ではこのように考えています

京都市には120の鉄軌道駅があり、そのうち1日に5000人以上の利用者があるのは約80施設。京都市では平成7年に「京都市人にやさしいまちづくり要綱」を策定し、人にやさしい福祉のまちづくりを進めてきました。交通バリアフリー法が制定されたことを踏まえ、さらに広く市民の意見を聞きながらこの法律に定められた「基本構想」を作成し、鉄軌道駅やその周辺の道路などのバリアフリー化を重点的・一体的に推進していきます。

出かけて見よう

あんなトコ

こんなトコ

1994年に女性の自立と社会参加の支援を目的に開設された京都市女性総合センター。

「ウィングス京都」という愛称には、左右の翼(ウィングス)がバランスをとって羽ばたくように、女性と男性が協力しあって、平等に参画できる社会をつくっていくという意味が込められています。



女性の社会参加を応援



男女が共に豊かに暮らせる社会づくりに向けた市民活動の拠点施設として建設された「ウィングス京都」。外壁は明治建築を再利用したもので、内部には使いやすさにこだわった快適な空間が広がっています。

入館者の多くが利用しているのが図書情報室で、女性の人権や生き方に関する図書等を集めた約5万冊の蔵書は、京都市在住・在勤・在学者なら誰でも利用できます。



図書情報室

ースもあります。また、女性の様々な悩みについての相談室を開設し、女性への暴力相談、法律相談、労働相談(いずれも予約制)でもサポートしています。

調理コーナーで行われる

男性向けの料理教室なども好評で、女性だけでなく男性も気軽に使える施設として定着しつつあるようです。ほかにも映画上映やピアノ発表会などに利用できるイベントホールや、会議室などがあります。イベントホールの後方には、客席とは隔絶した和室の「親子席」が設置され、子どもが動き回ったり、声を出しても大丈夫なので、子どもと一緒に安心してイベントに参加することができます。

また遊具やビデオ等の置かれた「子供の部屋」もあり、

女性問題の視点で収集されたコミックの閲覧コーナーや、新しいヒロイン像が描かれているビデオが視聴できるビデオブース、女性情報が検索できるパソコンブ



子供の部屋

運営主体の京都市女性協会が主催する催しのほとんどはこの部屋での保育付きなので、子どもの心配をすることなく講座に専念できます。さらに授乳室もあるなど子育て中の方も参加できる配慮が随所に見られます。

女性が社会の中で生き生きと活動できるために、企画事業でも様々な試みが行われています。特に注目したいのが「京都市女性大学」。「男らしさ」、「女らしさ」といったこれまでの価値観を見直し、自分らしさを追求するための講座(教育課程と専門課程をあわせて2年コース)が開講され、今年度は「ジェンダー・フリーの新世紀を！」がテーマ。様々な角度からジェンダーをとらえられる講座が開設されています。受講後に、大学に社会人入学したり、地域のリーダーとして活躍する人も育っています。

多彩な事業が展開されている「ウィングス京都」。繁華街に近く、気軽に立ち寄れるこの施設で、女性問題について考えてみませんか。

京都市女性総合センター(ウィングス京都)

〒604-8147

京都市中京区東洞院通六角下る御射山町262

TEL / 075-212-7470(代表) 075-212-7830(相談室直通)

FAX / 075-212-7460

URL / <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/wings262>

開館時間 / 平日午前9時~午後9時

(ただし日曜日・祝日は午後5時まで)

休館日 / 毎週水曜日、第3日曜日、年末年始(12/28~1/4)

交通機関 / 地下鉄「烏丸御池」駅(5番出口)

または地下鉄「四条」駅・阪急「烏丸」駅(20番出口)下車徒歩約5分

駐車場の使用はからだの不自由な方に限らせていただいておりますので、お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

編集後記 車いすに乗った「バービー人形」をご存じですか? 今回の取材でその存在を知ったのですが、残念なことに日本では販売されていないとのこと。アメリカでは遊びの中でも、自然に車いすに触れることができます。小さな子どもの頃から、「障害のある人も、そうでない人も共生する社会」を、あたりまえのこととして認識することの大切さを教えて頂きました。個性や違いを認め、互いに支え合って暮らしていける、人権が尊重された社会の実現の一助に、この「あい・ゆーKYOTO」がお役に立てますように...(K) 本誌に対するご意見、ご感想を右記までお寄せください。この情報誌は、年3回(5月、8月、12月)発行します。

ひと・まち・ロマン  元気都市・京都

発行日 平成13年8月1日

発行 京都市文化市民局人権文化推進部人権文化推進課

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る

☎075(222)3381

京都市印刷物第130382号

この情報誌は、区役所・支所の地域振興課、市役所の市政案内所ほかで配布しています。郵送をご希望の方は、返信用切手(140円分)を同封のうえ、京都市人権文化推進課までお申し込みください。